



5病棟の生活のひとコマ

とても暑かった夏が終わり、やっと秋がくると思っていたら、秋とは思えないほどの暑い毎日が続いていましたね。今年の秋も短くなりそうです。

さて、5病棟では秋のイベント『ハロウィンパーティー』に向けて制作を行いました。お水を入れたペットボトルを



振るとあら不思議!! 色水に変身! 患者さんたちも色がついていく様子にとっても驚いていました。その後、色水の入ったペットボトルでハロウィンを彩るカラフルなお化け作りをしました。画用紙を切ったりシールを貼ったりして作った表情豊かなお化けたちは、怖いというより可愛いコミカルなお化けになりました。お化けたちはギャラリーに展示した後『ハロウィンパーティー』にも参加する予定です。今年の『ハロウィンパーティー』は可愛いお化けたちも加わって、とても賑やかになりそうです。

(保育士 橋本 ひろみ)



糖尿病フポイントアドバイス No.15

糖尿病性末梢神経障害(DPN)検査をご存じですか？

糖尿病の三大合併症は網膜症、腎症、神経障害とされています。

その中でも糖尿病性末梢神経障害(DPN)は高い有病率で初期から進行すると言われています。一般的に両足の末端神経(足先、足底)から左右対称に障害が進行します。

■ DPNの症状

次のような異変を足に感じる場合があります。

- 足にしびれ感やピリピリ、チクチク、ヒリヒリ感がある。
- 足が物に触れたとき不快に感じる。
- 熱さや冷たさに対する足の感覚がおかしい。
- 歩いているときに足が地についていないように感じる。

神経障害が進行すると、小さな傷や火傷は痛みを感じにくく放置され、感染を合併して壊疽に発展してしまうことがあります。

■ DPNの検査

糖尿病がどの程度、末梢神経に影響を及ぼしているかを調べるには、簡便で定量的な神経伝導速

度検査(NCV)が有効です。

検査を行うのは、「腓腹神経」という下肢の感覚神経で、早期にDPNの徴候が現れる神経のひとつ

です。この神経に電気刺激を与えて、伝わる「速度」と「振幅(大きさ)」を測定することで、神経障害の有無や程度を評価することができます。神経が損傷されている場合は、伝導速度が遅くなり、振幅(大きさ)も低下していきます。

検査は、患者様に裸足でベットに横(または、うつ伏せ)で寝てもらい行います。検査機器をくるぶし付近に密着させ、10~15秒間ピリピリと微弱な電気刺激を与えて測定します。大きな苦痛はなく、検査時間は約3分と短時間です。

早期診断と適切な治療が、DPNの進行を遅らせ、生活の質を向上させるために重要です。DPNは全く自覚症状を伴わない場合もあり、糖尿病と診断された方は病状が進行しないよう、定期的な検査を心がけましょう。(臨床検査科 宮岡 沙希子)

